



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：戦闘の様子と国際社会の動き

(報道取り纏め)

研究員 江崎 智絵

1. 国軍及び反政府勢力との戦闘の様子

アレッポでは、依然として政府軍と反政府勢力との激しい戦闘が続いている。ただし、2012年8月11日、国軍が同市における反政府勢力の主要拠点であったサラハッディーン地区を制圧する等、優勢にあるようである。国軍は、13日頃より同市内の各地区で武装集団の駆逐作戦を開始した。

8月15日には、ダマスカスにある首相府の周辺で、国軍と反政府勢力との激しい衝突が発生したという。16日付ワタン紙等によると、反政府勢力は、RPGによって首相府を砲撃した。

8月19日より、ラマダーン明けの大祭イードルフィトルとなったが、アレッポ、ダラア及びダマスカス郊外県では、国軍による攻撃と反政府勢力との衝突が絶えないようである。

2. 国連・アラブ連盟共同特使をめぐる人事

2012年8月2日、国連の潘事務総長は、アナン・国連・アラブ連盟共同特使が辞意を伝えたことを明らかにした。その後任には、モラティノス前スペイン外相らの名前が候補として挙げられた。17日、同事務総長は、アナン特使の後任として、ブラヒミ元アルジェリア外相を任命したことを明らかにすると共に、新特使が国連安保理を含む強力で統一された国際的支援の獲得に尽力することへの期待を表明した。

アナン特使は、辞任の意向を表明した際、シリアにおける暴力の拡大と安保理の結束の欠如により、自身の役目を効果的に執行する環境が根本的に変わったと述べていた。ブラヒミ特使は、就任後の声明で、シリアにおける迅速な政治移行を可能とするために、国連安保理及び域内各国が一丸となる必要があると述べた。また、同特使は、フランス24テレビの取材に対し、シリアでの内戦の停止が最重要課題であるとの認識を明らかにした。一方、シリア国営通信によれば、シリア政府関係者は、ブラヒミ特使がシリア情勢を内戦と表現したことをシリアの現実と異なると述べ、反感を示した。

3. 国連監視団の解散

8月16日、国連安保理は、活動期限が同19日に迫っているシリアの国連停戦監視団を解散、シリアから撤収させることを決定した。同監視団の人員は、13日に約150人から約100人に縮小されていた。18日、同監視団の残り100人は、自身の任期が翌19日に切れることを受け、ダマスカスを離れ始めた。ガイ同監視団団長は、シリアの国軍及び反政府勢力が共に市民を守りきれなかったと発言し、本年6月半ばには両勢力が停戦を順守し得ないことが明らかとなっており、事態はエスカレートする一方であったと述べた。